

報告事項エ

美術品の購入について

鳥取県美術資料収集評価委員会を開催し、美術品取得基金を活用して購入する美術資料の候補作品(8点)を決定しましたので、別紙のとおり報告します。

令和3年7月7日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

美術品の購入について

令和3年7月7日
博 物 館

鳥取県美術資料収集評価委員会を開催し、美術品取得基金を活用して購入する美術資料の候補作品(8件)を決定しましたので、下記のとおり報告します。

記

1 鳥取県美術資料収集評価委員会

- (1) 日時 令和3年3月27日(土)午後1時30分から午後5時まで
- (2) 場所 博物館 会議室
- (3) 概要 各委員に候補作品の収集の可否について協議いただき、下記2のとおり購入候補作品を決定した。

2 購入候補作品

NO	分野	作家名	購入理由	作品名	制作年	材質技法 (員数)	寸法 H×W×D	購入予定価格 (税込)
1	近世 絵画	ひじかた どうれい 土方 稻嶺 1741年 ～ 1807年	【鳥取県の美術】 ● 鳥取藩の家老・荒尾志摩の家臣であった土方家に次子として生まれる。江戸で宋紫石に学びのち京都へ移る。晩年、鳥取藩に藩絵師として召し抱えられる(五人扶持)。鳥取画壇の祖とも言われ、江戸時代の鳥取の画家の中で画力・全国的な知名度ともに最も高い画家である。 ● 鑑賞価値が高く、購入機会も希少な優品。	とうぼうさくず 東方朔図	江戸 時代 後期	(絹 本 幅・ 対・ 著 色)	各 117.0 × 49.5 cm	4,500 千円
2	近代 工芸	にしむら そういちろう 西村 荘一郎 1846年 ～ 1914年	【鳥取県の美術】 ● 汗入郡富長村(現大山町)出身。養子先の御来屋宿にて木象嵌師の名工・長谷川治左衛門に弟子入りし、慶應3(1868)年に独立。明治6(1873)年以降、ウィーン万博をはじめ国内外の博覧会などに出品し、受賞を重ねた。精度の高い西村の表現は木象嵌を芸術の域にまで高めたとして評価された。明治22(1889)年には日本美術協会委員となり、明治天皇に彫技を披露した。 ● 西村の作品として収集する最初の作品として妥当であり、郷土作家の調査研究の進展に寄与しうる優品。	うしぼくどうはめきすずりばこ 牛牧童嵌木硯箱	明治 期	木	25.8 × 25.8 × 4.3 cm	1,200 千円
3	近代 洋画	はせかわ としゆき 長谷川 利行 1891年 ～ 1940年	【鳥取県の美術】 ● 京都市に生まれ、上京後は小説の発表と絵画制作を並行して行う。1927年の第14回二科展にて橋牛賞を受賞。同年より1930年協会展に出品を重ねる中で前田寛治との親交を深めた。都市の風景や酒場の女性たちを独特の色彩で自由奔放に描いたその作品は、日本のフォーヴと呼ぶに相応しいもので、若い画家たちの注目を集めた。 ● 前田寛治を顕彰してきた館として、収集に相応しい優品。	ふじんぞう (まえたかんじふじんぞう) 婦人像 (前田寛治夫人像)	1937 (昭和 12) 年	油彩・ カン ヴァ ス	33.3 × 24.1 cm	3,700 千円
4	現代 美術	はらぐち のりゆき 原口 典之 1946年 ～ 2020年	【国内外の優れた美術】 ● 神奈川県出身。1974年には「日本—伝統と現代」展(クンストハレ・デュッセルドルフ)に出品後、約1年間に渡り欧米各地に滞在する。1977年ドクメンタ6にて《オイル・プール》を発表、工業的な素材を用いたミニマルな形状を特徴とし、物質の存在に向き合う身体のリアリティから出発して場や空間の生成/変容を図る。 ● 今後立体作品の収集の足がかりとなる優品。	East No. a 9	1986 (昭和 61) 年	パ ス テ ル ・ 紙	103 × 137.7 cm	350 千円
5				East No. a 14			103 × 137 cm	350 千円

6	むらおか さぶろう 村岡 三郎 1928年 ～ 2013年	<p>【国内外の優れた美術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 大阪市の出身。自らの戦争体験をつきつめ、溶断した鉄、硫黄の結晶、酸素ボンベ、塩といった物質を素材とした重量感のある作品を制作、併せてインスタレーションも展開し、日本の現代彫刻を代表する作家として評価を得る。1990年第44回ヴェネツィア・ビエンナーレに日本代表として参加する等、国内外で発表を続けた。また滋賀大学教育学部、京都精華大学にて教鞭を執り、後進の育成にも努めた。 ● 現代美術分野のコレクションを拡充する上で上記4、5の原口典之とともに収集に値する重要な作品。 	Standing Bed	1979 (昭和54) 年	鉄	192 × 93 × 115 cm	6,000 千円
7	こばやし まさと 小林 正人 1957年 ～	<p>【国内外の優れた美術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東京都出身。東京藝術大学絵画科を卒業後、画廊にて個展を続ける。1996年にサンパウロ・ビエンナーレの日本代表になったことを契機として渡欧、2006年に帰国するまでベルギーのゲントを拠点に活動した。カンヴァスを張りながら描く独特の手法で知られ、描くことの根源に迫る制作態度を特徴とする。 ● 比較的初期のユニークな作品であり、現代美術分野のコレクションを拡充する上で収集に値する優品。 	かくちから 画く力	1991 (平成3) 年	油彩・ カンヴァス	120号 (131 × 194.5 cm)	2,500 千円
8	たけかわ のぶあき 竹川 宣彰 1977年 ～	<p>【同時代の美術の動向を示す作品】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 東京都出身。東京藝術大学絵画科を卒業と同時にオオタファインアーツで個展を開催。平面、立体、インスタレーションなど自在な表現方法を用い、現代の社会や政治に対する鋭い批判的態度から歴史を再検証しつつも、大らかでユーモラスな作品を制作する。第12回リヨンビエンナーレ(2013)を皮切りに国内外で数多くの展覧会に参加しながら、デモなどの路上の活動にも加わることで、社会・歴史と個人の間を問い直す新しい表現方法を、アートの枠を超えて常に模索している。 ● 2011年3月に発生した東日本大震災を契機として制作された作品シリーズに含まれる作品であり、時代を記録するというテーマに鑑みて、収集に値する優品。 	ぐんらく 群落	2011 (平成23) 年	水彩・ 紙	80 × 100 cm	300 千円
計				8件	18,900 千円		

3 参考 近年の購入状況

年度	購入金額 (千円)	内 訳	
令和2年度	22,327	141点	絵画2点、彫刻4点、写真135点
令和元年度	15,496	4点	絵画4点
平成30年度	30,285	12点	絵画7点、彫刻5点
平成29年度	0	なし	ただし、受贈した興国寺書院襖絵の修復費を平成29年度と平成30年度に基金より支出
平成28年度	28,890	7点	絵画4点、彫刻3点

令和3(2021)年度購入候補作品



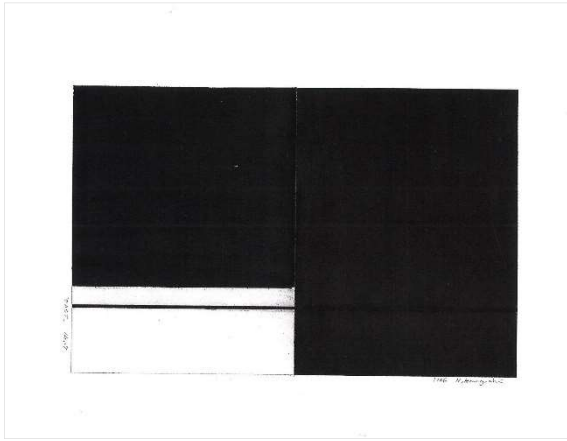
1 土方稻嶺《東方朔図》
江戸時代後期 | 絹本着色・三幅対



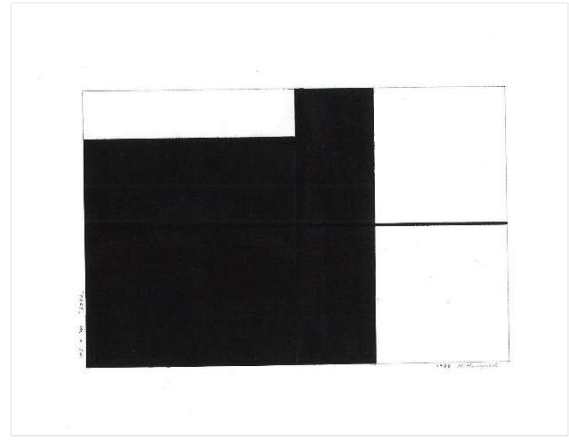
2 西村莊一郎《牛牧童嵌木硯箱》
明治初期 | 木(画像はモノクロ)



3 長谷川利行《婦人像(前田寛治夫人像)》
1937年 | 油彩・カンヴァス



4 原口典之《East No. a 9》
1986年 | パステル・紙



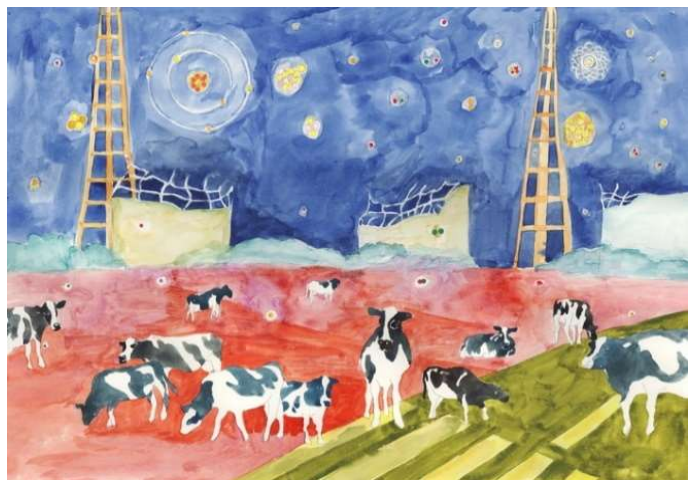
5 原口典之《East No. a 14》
1986年 | パステル・紙



6 村岡三郎《Standing Bed》
1979年 | 鉄



7 小林正人《画く力》
1991年 | 油彩・カンヴァス



8 竹川宣彰《群落》
2011年 | 水彩・紙